

離散数理工学 (2025 年度後学期)

第9回

高次元 (3) : 凸多面体の面構造

岡本 吉央 (電気通信大学)

okamotoy@uec.ac.jp

2026 年 1 月 6 日

最終更新 : 2025 年 12 月 22 日 07:40

今日の目標

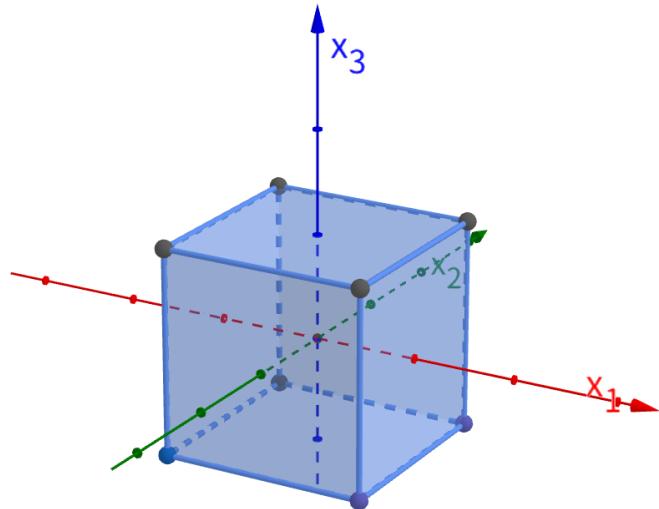
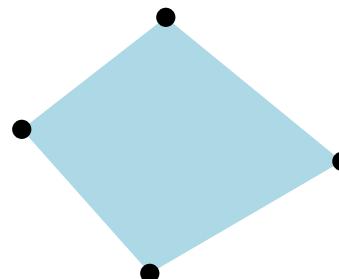
凸多面体の面を調べることができるようになる

- 面の定義：頂点, ファセット
- 凸多面体の面の数

多くの証明を省略する
(線形計画法の理論を必要とするため)

定義：凸多面体

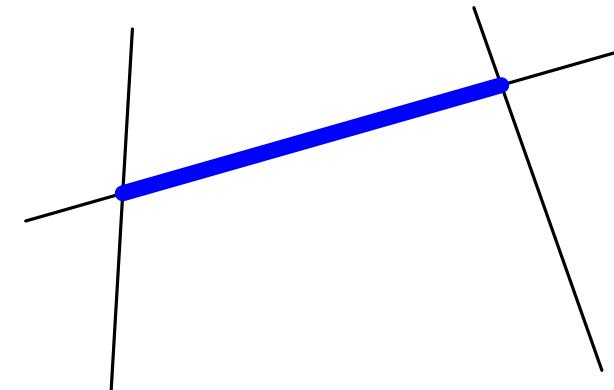
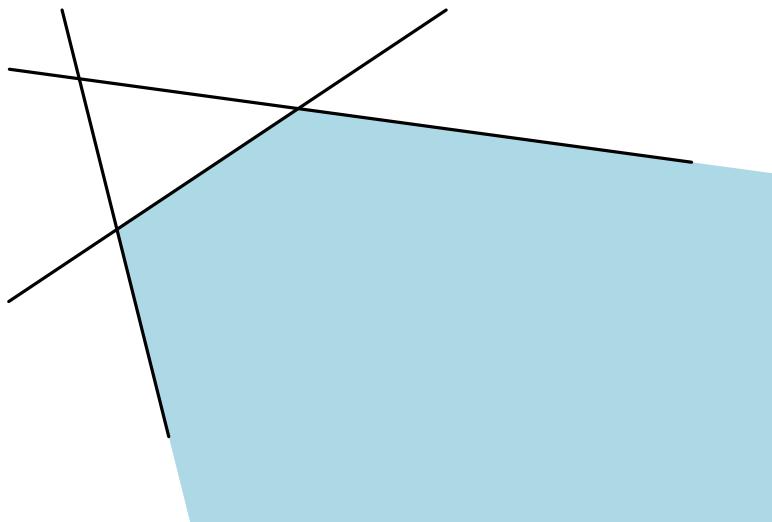
凸多面体 とは、有限点集合の凸包



凸多面体の 次元 とは、そのアフィン包の次元

定義：凸多面集合

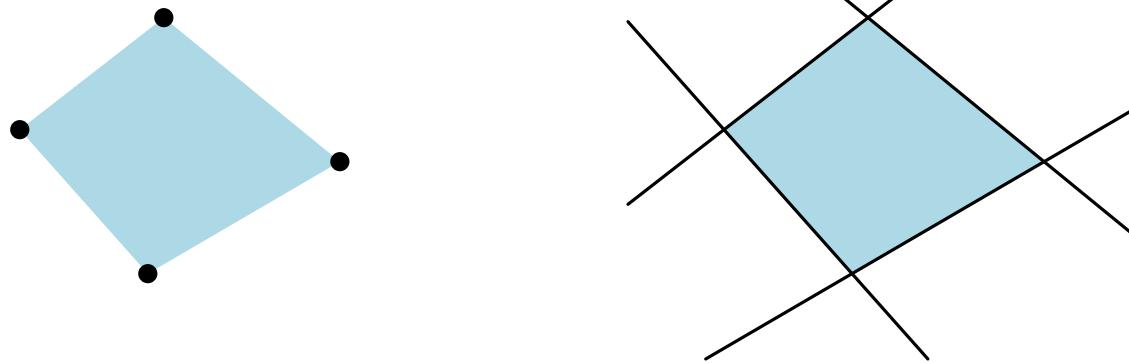
凸多面集合 とは、有限個の閉半空間の共通部分



凸多面集合の 次元 とは、そのアフィン包の次元

性質(ここでは証明しないが, 重要)

1. 凸多面体は有界な凸多面集合
2. 有界な凸多面集合は凸多面体



つまり, 凸多面体は次の 2 つの記述法を持つ

- **頂点記述**: 有限点集合の凸包
- **超平面記述**: 有限個の閉半空間の共通部分

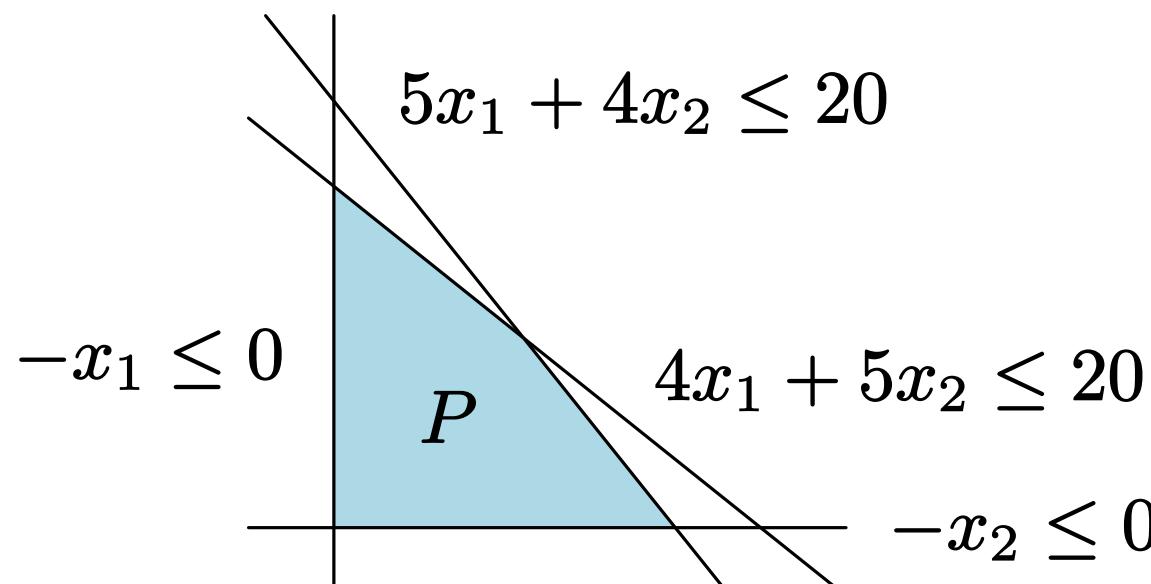
1. **凸多面体の面**
2. 凸多面体の面の数：3次元の場合
3. 凸多面体の面の数：4次元以上の場合

凸多面体 $P = \{x \in \mathbb{R}^d \mid a_i^T x \leq b_i \forall i \in \{1, 2, \dots, m\}\}$
ただし, $a_i \in \mathbb{R}^d, b_i \in \mathbb{R} \forall i \in \{1, 2, \dots, m\}$

定義：凸多面体の面

P の **面** とは, ある添字部分集合 $I \subseteq \{1, 2, \dots, m\}$ を用いて, 次のように書ける集合 F

$$F = P \cap \{x \in \mathbb{R}^d \mid a_i^T x = b_i \forall i \in I\}$$

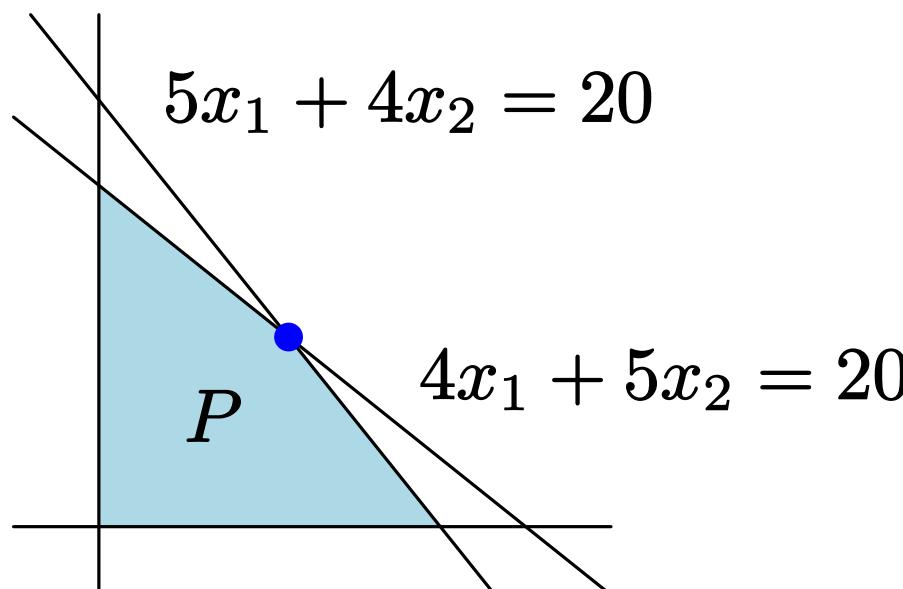


凸多面体 $P = \{x \in \mathbb{R}^d \mid a_i^T x \leq b_i \forall i \in \{1, 2, \dots, m\}\}$
ただし, $a_i \in \mathbb{R}^d, b_i \in \mathbb{R} \forall i \in \{1, 2, \dots, m\}$

定義：凸多面体の面

P の **面** とは, ある添字部分集合 $I \subseteq \{1, 2, \dots, m\}$ を用いて, 次のように書ける集合 F

$$F = P \cap \{x \in \mathbb{R}^d \mid a_i^T x = b_i \forall i \in I\}$$

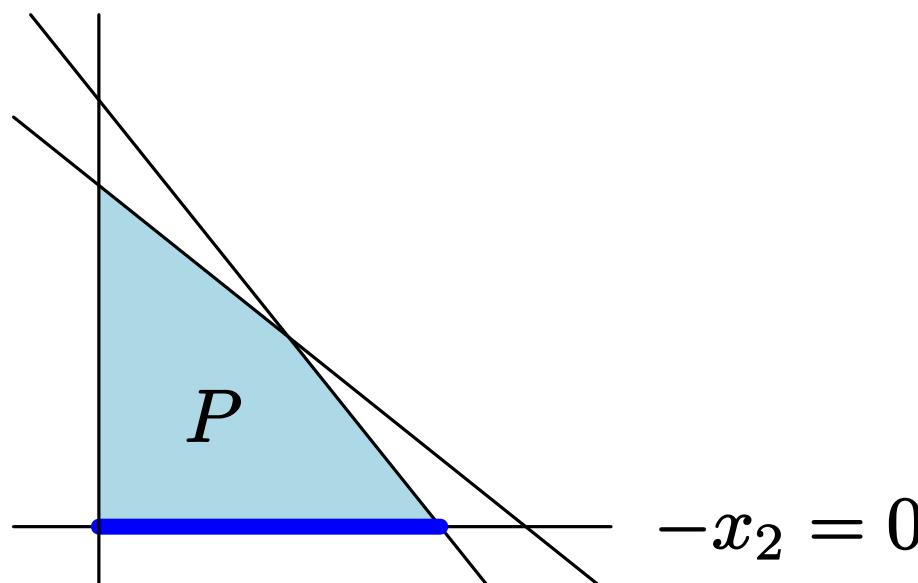


凸多面体 $P = \{x \in \mathbb{R}^d \mid a_i^T x \leq b_i \forall i \in \{1, 2, \dots, m\}\}$
ただし, $a_i \in \mathbb{R}^d, b_i \in \mathbb{R} \forall i \in \{1, 2, \dots, m\}$

定義：凸多面体の面

P の **面** とは, ある添字部分集合 $I \subseteq \{1, 2, \dots, m\}$ を用いて, 次のように書ける集合 F

$$F = P \cap \{x \in \mathbb{R}^d \mid a_i^T x = b_i \forall i \in I\}$$

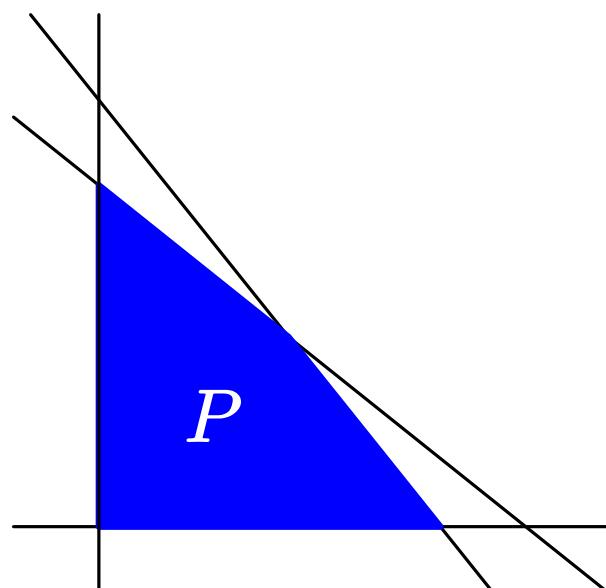


凸多面体 $P = \{x \in \mathbb{R}^d \mid a_i^T x \leq b_i \forall i \in \{1, 2, \dots, m\}\}$
ただし, $a_i \in \mathbb{R}^d, b_i \in \mathbb{R} \forall i \in \{1, 2, \dots, m\}$

定義：凸多面体の面

P の **面** とは, ある添字部分集合 $I \subseteq \{1, 2, \dots, m\}$ を用いて, 次のように書ける集合 F

$$F = P \cap \{x \in \mathbb{R}^d \mid a_i^T x = b_i \forall i \in I\}$$

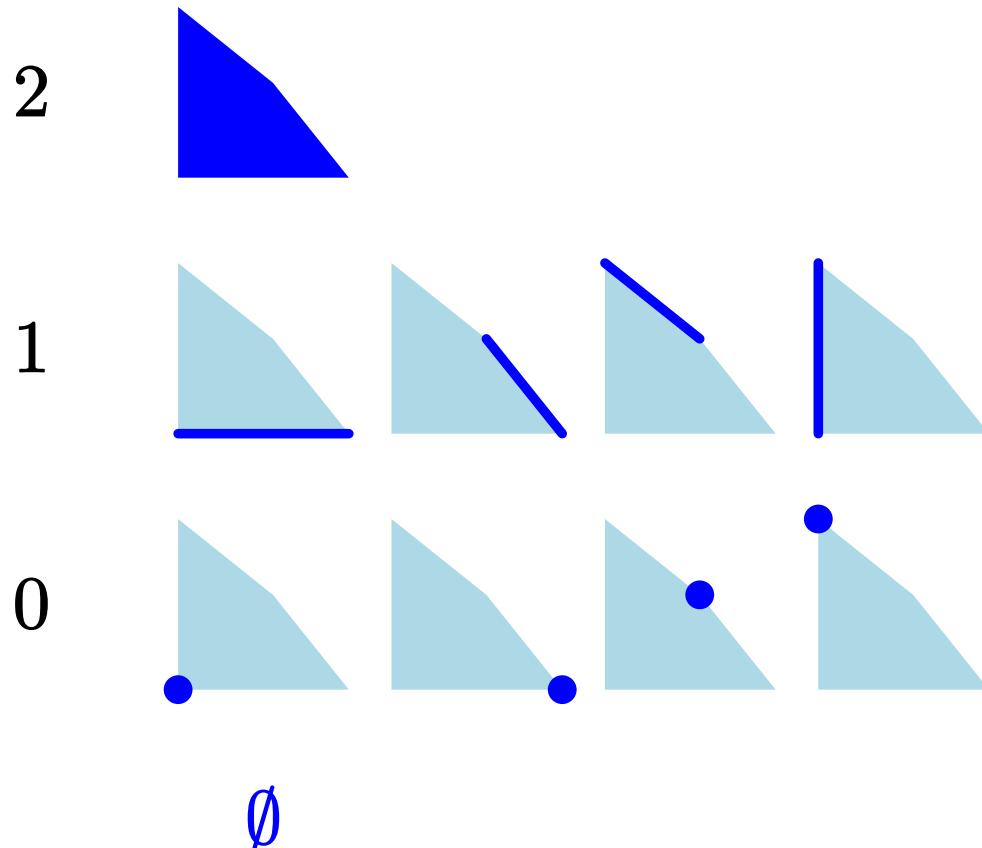


凸多面体 $P \subseteq \mathbb{R}^d$

定義：面の次元

P の面 F の次元は、 F のアフィン包 $\text{aff}(F)$ の次元

次元

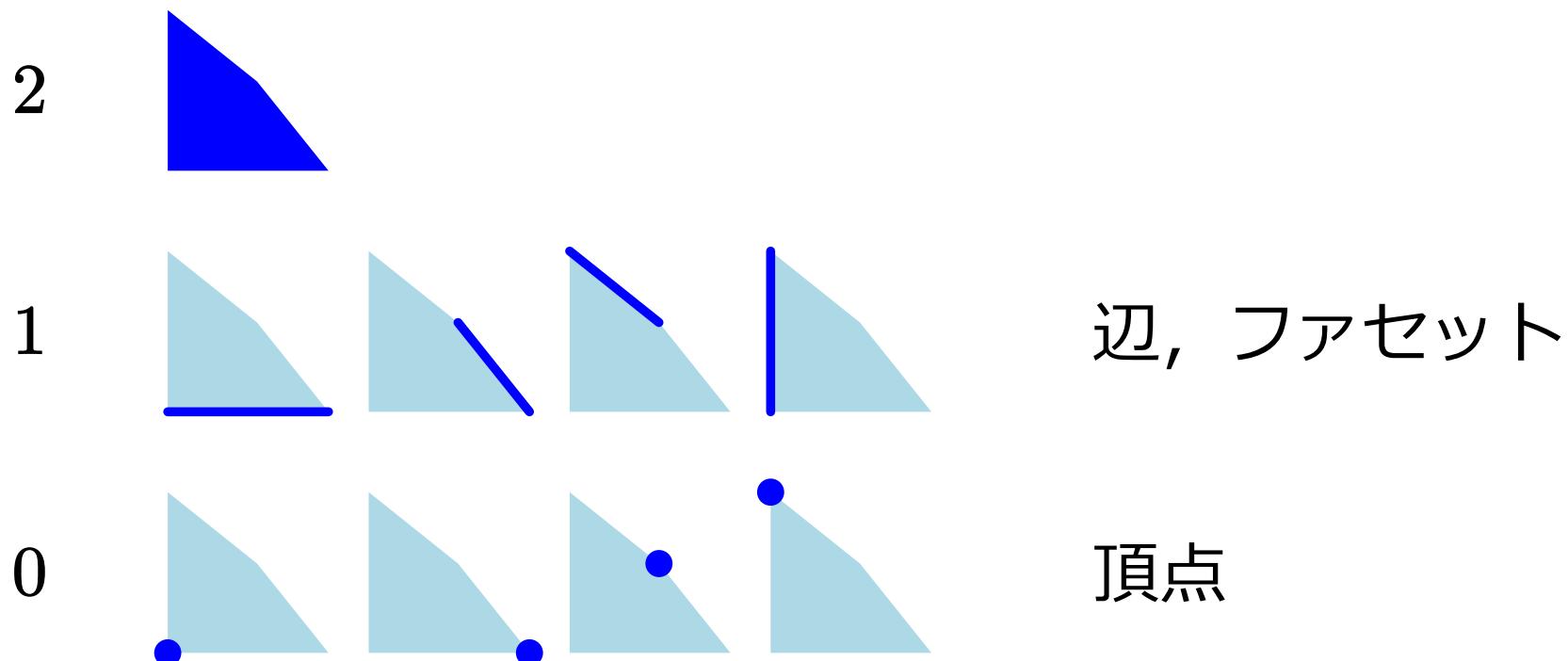


凸多面体 $P \subseteq \mathbb{R}^d$, P の次元 = $\dim P \leq d$

定義：頂点, 辺, ファセット(側面)

- P の **頂点** とは, P の 0 次元面のこと
- P の **辺** とは, P の 1 次元面のこと
- P の **ファセット** とは, P の $\dim P - 1$ 次元面のこと

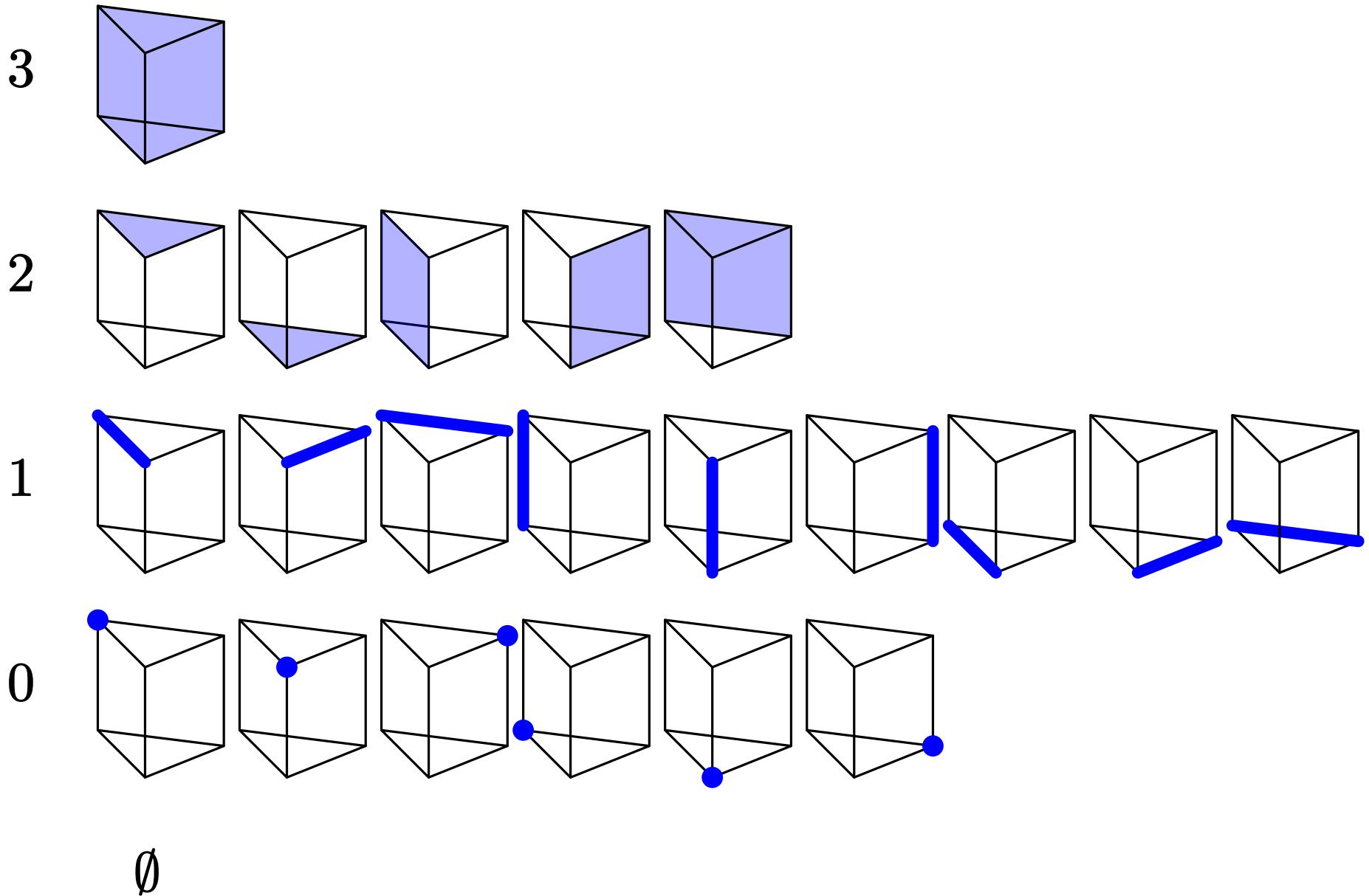
次元



凸多面体の面：例

10 / 39

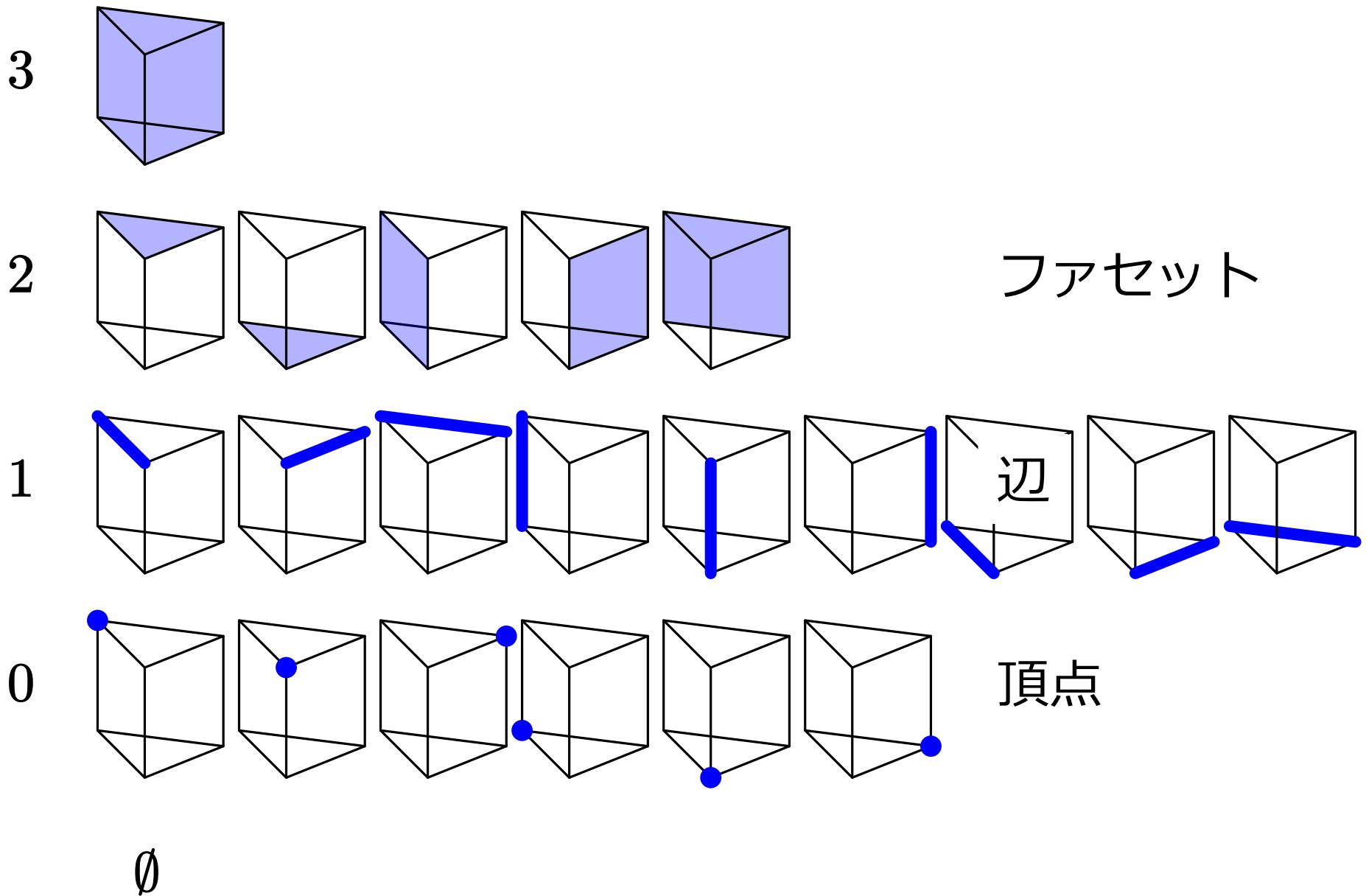
次元



凸多面体の面：例

10 / 39

次元



定義：立方体

d 次元立方体 とは、次の定義される凸多面体

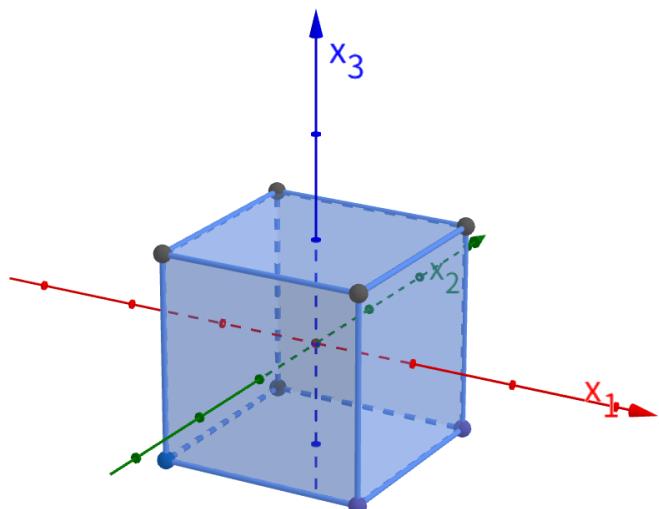
- 頂点記述：

$$\text{CH}\left(\left\{\sum_{i=1}^d (-1)^{s_i} e_i \mid s_i \in \{0, 1\}\right\}\right)$$

(e_i は基本ベクトル)

- 超平面記述：

$$\{x \in \mathbb{R}^d \mid -1 \leq x_i \leq 1 \quad \forall i \in \{1, \dots, d\}\}$$



d 次元立方体 $C_d = \{x \in \mathbb{R}^d \mid -1 \leq x_i \leq 1 \quad \forall i \in \{1, \dots, d\}\}$

確認したいこと

$v = [1 \quad 1 \quad \cdots \quad 1]^T \in \mathbb{R}^d$ は C_d の頂点である

d 次元立方体 $C_d = \{x \in \mathbb{R}^d \mid -1 \leq x_i \leq 1 \quad \forall i \in \{1, \dots, d\}\}$

確認したいこと

$$v = [1 \quad 1 \quad \cdots \quad 1]^T \in \mathbb{R}^d \text{ は } C_d \text{ の頂点である}$$

d 個の等式

$$\left. \begin{array}{l} x_1 = 1 \\ x_2 = 1 \\ \vdots \\ x_d = 1 \end{array} \right\} \text{これらを満たす点の集合} = \{v\}$$

$$\therefore \{v\} = C_d \cap \{x \mid x_i = 1 \quad \forall i \in \{1, \dots, d\}\}$$

次元は 0

d 次元立方体 $C_d = \{x \in \mathbb{R}^d \mid -1 \leq x_i \leq 1 \quad \forall i \in \{1, \dots, d\}\}$

確認したいこと

$v' = [-1 \quad 1 \quad \cdots \quad 1]^T \in \mathbb{R}^d$ は C_d の頂点である

d 個の等式

$$\left. \begin{array}{l} x_1 = -1 \\ x_2 = 1 \\ \vdots \\ x_d = 1 \end{array} \right\} \text{これらを満たす点の集合} = \{v'\}$$

$\therefore \{v\} = C_d \cap \{x \mid x_1 = -1, x_i = 1 \quad \forall i \in \{2, \dots, d\}\}$

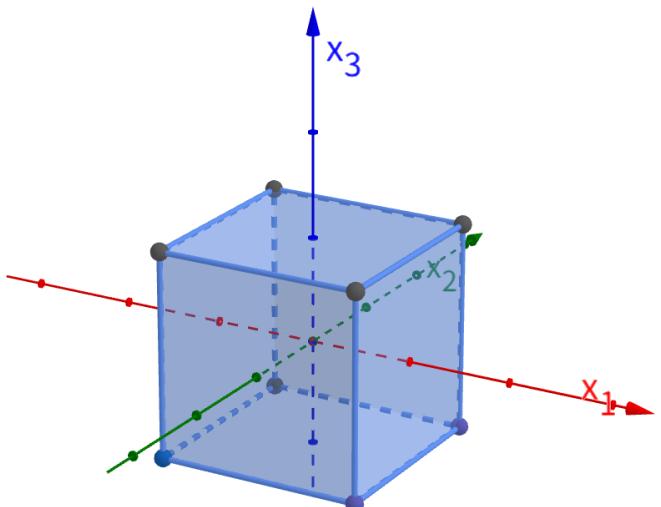
次元は 0

手順

$P = \text{CH}(V) \subseteq \mathbb{R}^d$, $\dim P = d$ とする

1. V から点を d 個選んで, W とする
2. $\text{aff}(W)$ の次元が $d - 1$ であることを確認する
3. $\text{aff}(W)$ を $a^T x = b$ の形で書く
4. 不等式 $a^T x \leq b$ を任意の $x \in V$ が満たすことを確認する
5. $P \cap \text{aff}(W)$ は P のファセットである

証明 : 省略

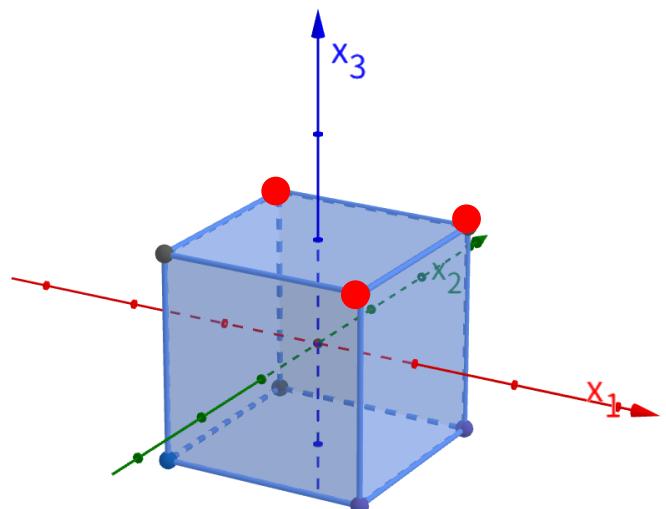


手順

$P = \text{CH}(V) \subseteq \mathbb{R}^d$, $\dim P = d$ とする

1. V から点を d 個選んで, W とする
2. $\text{aff}(W)$ の次元が $d - 1$ であることを確認する
3. $\text{aff}(W)$ を $a^T x = b$ の形で書く
4. 不等式 $a^T x \leq b$ を任意の $x \in V$ が満たすことを確認する
5. $P \cap \text{aff}(W)$ は P のファセットである

証明 : 省略

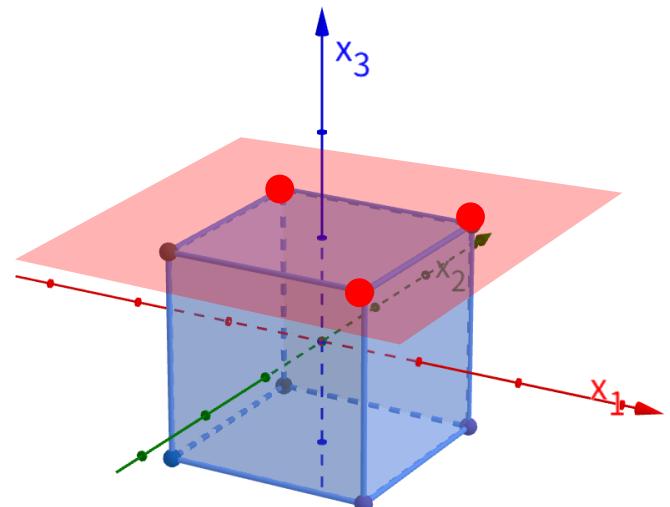


手順

$P = \text{CH}(V) \subseteq \mathbb{R}^d$, $\dim P = d$ とする

1. V から点を d 個選んで, W とする
2. $\text{aff}(W)$ の次元が $d - 1$ であることを確認する
3. $\text{aff}(W)$ を $a^T x = b$ の形で書く
4. 不等式 $a^T x \leq b$ を任意の $x \in V$ が満たすことを確認する
5. $P \cap \text{aff}(W)$ は P のファセットである

証明 : 省略



$$d \text{ 次元立方体 } C_d = \text{CH}(\left\{ \sum_{i=1}^d (-1)^{s_i} e_i \mid s_i \in \{0, 1\} \right\})$$

確認したいこと

次の W に対して, $F = C_d \cap \text{aff}(W)$ は
 C_d のファセットである

1. V から点を d 個選んで, W とする

$$W = \left\{ \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \\ \vdots \\ 1 \end{bmatrix}, \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \\ \vdots \\ -1 \end{bmatrix}, \dots, \begin{bmatrix} 1 \\ -1 \\ -1 \\ \vdots \\ -1 \end{bmatrix} \right\}$$

$$d \text{ 次元立方体 } C_d = \text{CH}(\left\{ \sum_{i=1}^d (-1)^{s_i} e_i \mid s_i \in \{0, 1\} \right\})$$

確認したいこと

次の W に対して, $F = C_d \cap \text{aff}(W)$ は
 C_d のファセットである

2. $\text{aff}(W)$ の次元が $d - 1$ であることを確認する

$$\begin{bmatrix} 1 & 1 & \cdots & 1 \\ 1 & 1 & \cdots & -1 \\ \vdots & \vdots & \ddots & \vdots \\ 1 & -1 & \cdots & -1 \\ 1 & 1 & \cdots & 1 \end{bmatrix} \xrightarrow{\text{行基本変形}} \begin{bmatrix} 1 & 0 & \cdots & 0 \\ 0 & 1 & \cdots & 0 \\ \vdots & \vdots & \ddots & \vdots \\ 0 & 0 & \cdots & 1 \\ 0 & 0 & \cdots & 0 \end{bmatrix}$$

$$d \text{ 次元立方体 } C_d = \text{CH}(\left\{ \sum_{i=1}^d (-1)^{s_i} e_i \mid s_i \in \{0, 1\} \right\})$$

確認したいこと

次の W に対して, $F = C_d \cap \text{aff}(W)$ は
 C_d のファセットである

2. $\text{aff}(W)$ の次元が $d - 1$ であることを確認する

$$\begin{bmatrix} 1 & 1 & \cdots & 1 \\ 1 & 1 & \cdots & -1 \\ \vdots & \vdots & \ddots & \vdots \\ 1 & -1 & \cdots & -1 \\ 1 & 1 & \cdots & 1 \end{bmatrix} \xrightarrow{\text{行基本変形}} \begin{bmatrix} 1 & 0 & \cdots & 0 \\ 0 & 1 & \cdots & 0 \\ \vdots & \vdots & \ddots & \vdots \\ 0 & 0 & \cdots & 1 \\ 0 & 0 & \cdots & 0 \end{bmatrix} \quad \begin{aligned} \therefore \text{rank} &= d \\ \therefore \dim \text{aff}(W) &= d - 1 \end{aligned}$$

$$d \text{ 次元立方体 } C_d = \text{CH}(\left\{ \sum_{i=1}^d (-1)^{s_i} e_i \mid s_i \in \{0, 1\} \right\})$$

確認したいこと

次の W に対して, $F = C_d \cap \text{aff}(W)$ は
 C_d のファセットである

3. $\text{aff}(W)$ を $a^T x = b$ の形で書く

$$\begin{bmatrix} a_1 & a_2 & \cdots & a_d & -b \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 1 & 1 & \cdots & 1 \\ 1 & 1 & \cdots & -1 \\ \vdots & \vdots & \ddots & \vdots \\ 1 & -1 & \cdots & -1 \\ 1 & 1 & \cdots & 1 \end{bmatrix} = \mathbf{0}^T$$

$$d \text{ 次元立方体 } C_d = \text{CH}(\left\{ \sum_{i=1}^d (-1)^{s_i} e_i \mid s_i \in \{0, 1\} \right\})$$

確認したいこと

次の W に対して, $F = C_d \cap \text{aff}(W)$ は
 C_d のファセットである

3. $\text{aff}(W)$ を $a^T x = b$ の形で書く

$$\begin{bmatrix} a_1 & a_2 & \cdots & a_d & -b \end{bmatrix} \left[\begin{array}{ccccc} 1 & 1 & \cdots & 1 \\ 1 & 1 & \cdots & -1 \\ \vdots & \vdots & \ddots & \vdots \\ 1 & -1 & \cdots & -1 \\ 1 & 1 & \cdots & 1 \end{array} \right] = \mathbf{0}^T$$

||

$$\begin{bmatrix} 1 & 0 & \cdots & 0 & -1 \end{bmatrix}$$

$$d \text{ 次元立方体 } C_d = \text{CH}(\left\{ \sum_{i=1}^d (-1)^{s_i} e_i \mid s_i \in \{0, 1\} \right\})$$

確認したいこと

次の W に対して, $F = C_d \cap \text{aff}(W)$ は
 C_d のファセットである

3. $\text{aff}(W)$ を $a^T x = b$ の形で書く

$$\begin{bmatrix} a_1 & a_2 & \cdots & a_d & -b \end{bmatrix} \left[\begin{array}{ccccc} 1 & 1 & \cdots & 1 \\ 1 & 1 & \cdots & -1 \\ \vdots & \vdots & \ddots & \vdots \\ 1 & -1 & \cdots & -1 \\ 1 & 1 & \cdots & 1 \end{array} \right] = \mathbf{0}^T$$

||

$$\begin{bmatrix} 1 & 0 & \cdots & 0 & -1 \end{bmatrix} \quad \therefore \text{aff}(W) = \{x \in \mathbb{R}^d \mid x_1 = 1\}$$

$$d \text{ 次元立方体 } C_d = \text{CH}(\left\{ \sum_{i=1}^d (-1)^{s_i} e_i \mid s_i \in \{0, 1\} \right\})$$

確認したいこと

次の W に対して, $F = C_d \cap \text{aff}(W)$ は
 C_d のファセットである

4. 不等式 $a^T x \leq b$ を任意の $x \in V$ が満たすことを
確認する $\boxed{x_1 \leq 1}$

$$x = \sum_{i=1}^d (-1)^{s_i} e_i \text{ とすると } (s_i \in \{0, 1\})$$

$$x_1 = (-1)^{s_1} \leq 1$$

\therefore 任意の $x \in V$ が $x_1 \leq 1$ を満たす

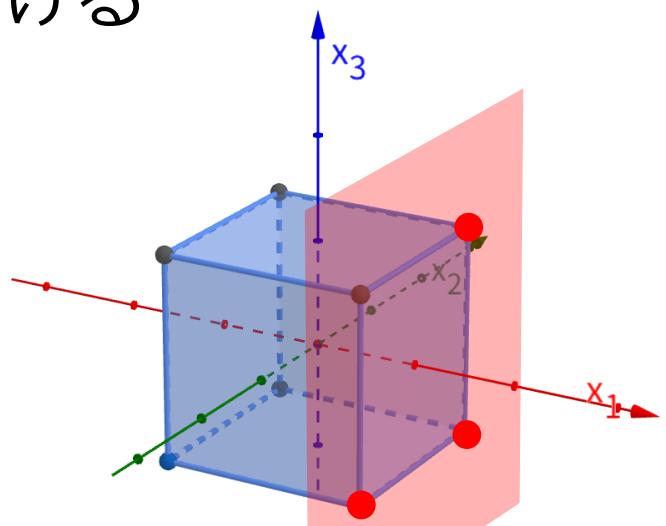
$$d \text{ 次元立方体 } C_d = \text{CH}(\left\{ \sum_{i=1}^d (-1)^{s_i} e_i \mid s_i \in \{0, 1\} \right\})$$

確認したいこと

次の W に対して, $F = C_d \cap \text{aff}(W)$ は
 C_d のファセットである

5. $P \cap \text{aff}(W)$ は P のファセットである

特に, $F = C_d \cap \{x \in \mathbb{R}^d \mid x_1 = 1\}$ と書ける

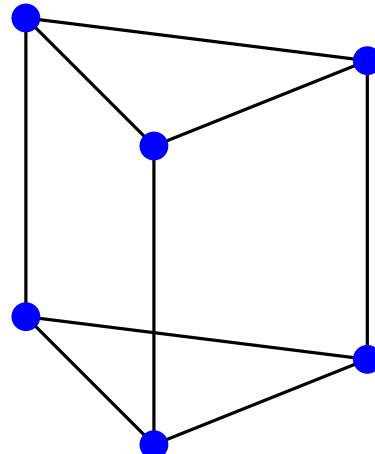


凸多面体 $P \subseteq \mathbb{R}^d$, P の頂点集合 V

性質：凸多面体はその頂点集合の凸包

- $P = \text{CH}(V)$
- 任意の $v \in V$ に対して, $P \neq \text{CH}(V - \{v\})$

証明：省略

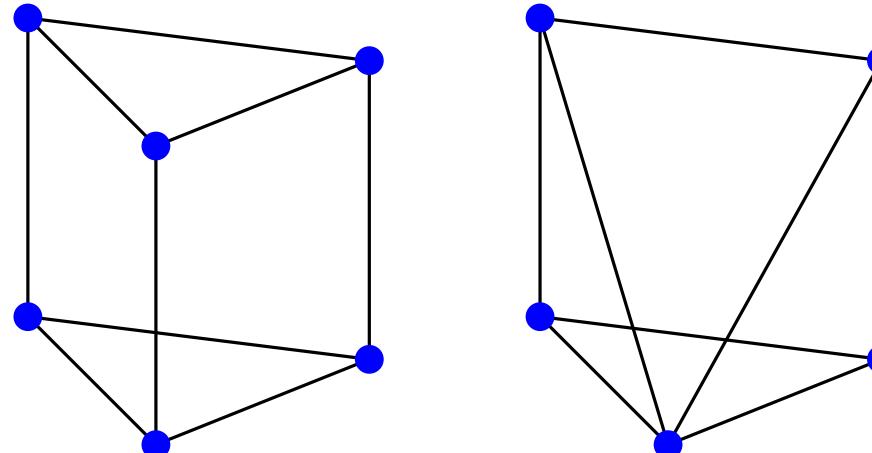


凸多面体 $P \subseteq \mathbb{R}^d$, P の頂点集合 V

性質：凸多面体はその頂点集合の凸包

- $P = \text{CH}(V)$
- 任意の $v \in V$ に対して, $P \neq \text{CH}(V - \{v\})$

証明：省略



凸多面体 $P \subseteq \mathbb{R}^d$, P のファセット F

定義：ファセット定義不等式

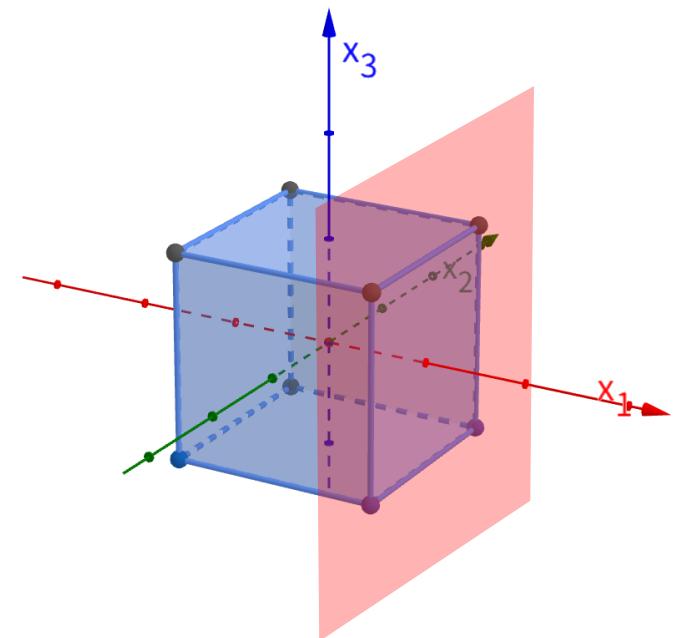
$F = P \cap \{x \in \mathbb{R}^d \mid a^T x = b\}$ と書いて、

$P \subseteq \{x \in \mathbb{R}^d \mid a^T x \leq b\}$ であるとき、

「 $a^T x \leq b$ 」を P の **ファセット定義不等式** と呼ぶ

「 $x_1 \leq 1$ 」は

3次元立方体のファセット定義不等式



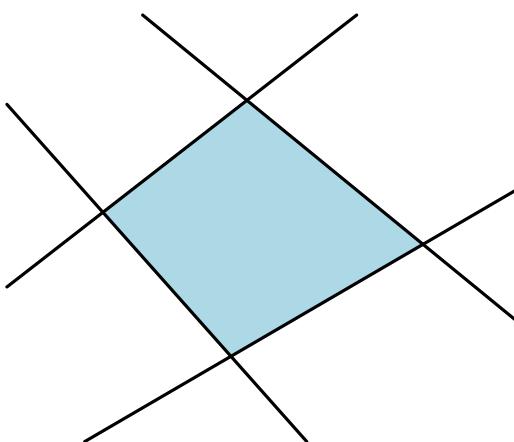
凸多面体 $P \subseteq \mathbb{R}^d$, P のファセット集合 $\{F_1, F_2, \dots, F_m\}$
 F_i を定義する不等式 $a_i^T x \leq b_i$ (ただし, $a_i \in \mathbb{R}^d, b_i \in \mathbb{R}$)

性質：凸多面体とファセット定義不等式

P の次元が d のとき

- $P = \{x \in \mathbb{R}^d \mid a_i^T x \leq b_i \forall i \in \{1, 2, \dots, m\}\}$
- 任意の $j \in \{1, 2, \dots, m\}$ に対して,
 $P \neq \{x \in \mathbb{R}^d \mid a_i^T x \leq b_i \forall i \neq j\}$

証明：省略



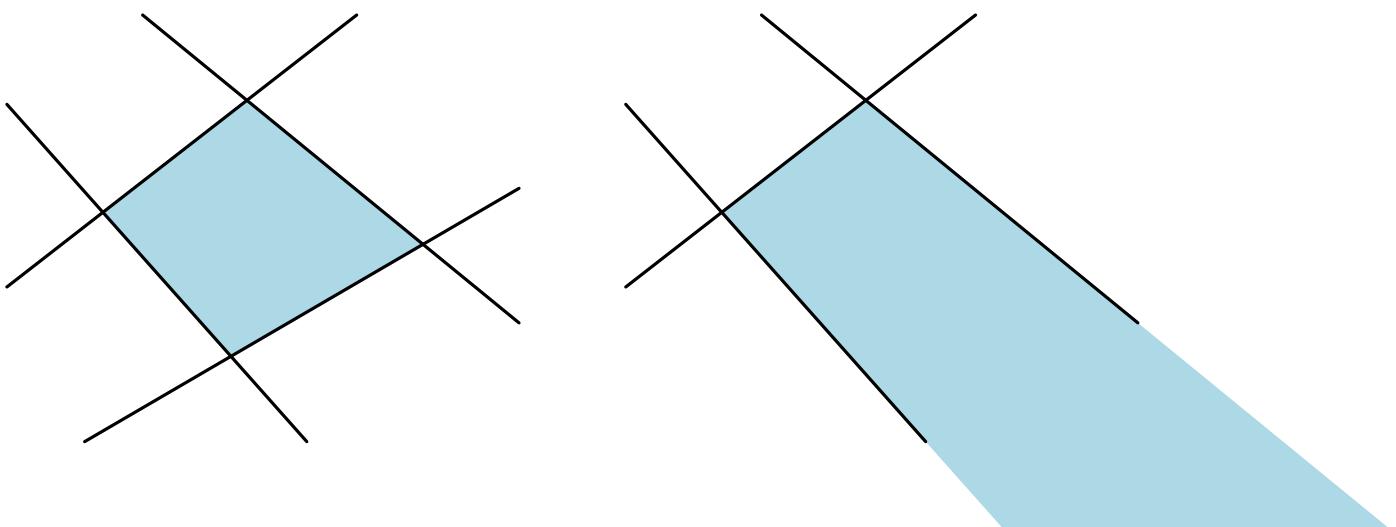
凸多面体 $P \subseteq \mathbb{R}^d$, P のファセット集合 $\{F_1, F_2, \dots, F_m\}$
 F_i を定義する不等式 $a_i^T x \leq b_i$ (ただし, $a_i \in \mathbb{R}^d, b_i \in \mathbb{R}$)

性質：凸多面体とファセット定義不等式

P の次元が d のとき

- $P = \{x \in \mathbb{R}^d \mid a_i^T x \leq b_i \forall i \in \{1, 2, \dots, m\}\}$
- 任意の $j \in \{1, 2, \dots, m\}$ に対して,
 $P \neq \{x \in \mathbb{R}^d \mid a_i^T x \leq b_i \forall i \neq j\}$

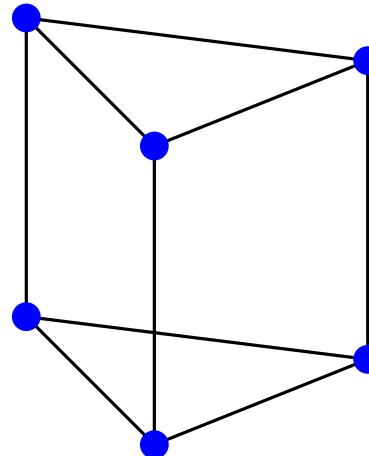
証明：省略

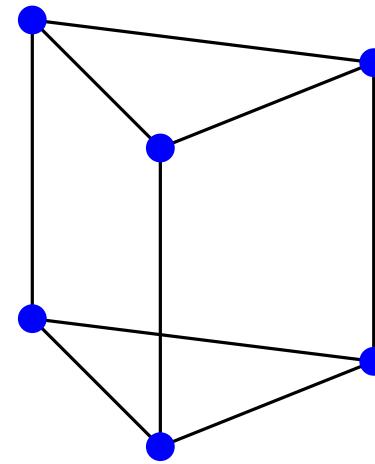


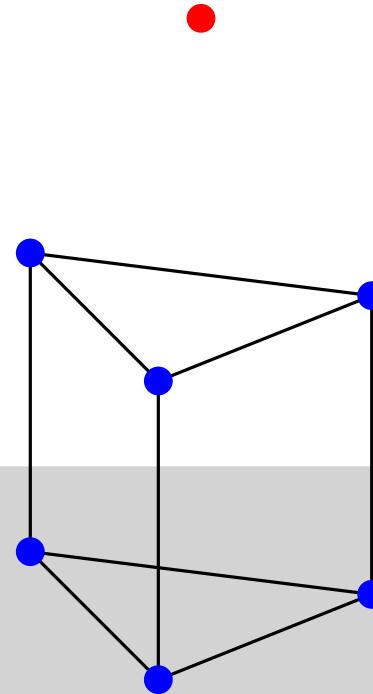
1. 凸多面体の面
2. **凸多面体の面の数：3次元の場合**
3. 凸多面体の面の数：4次元以上の場合

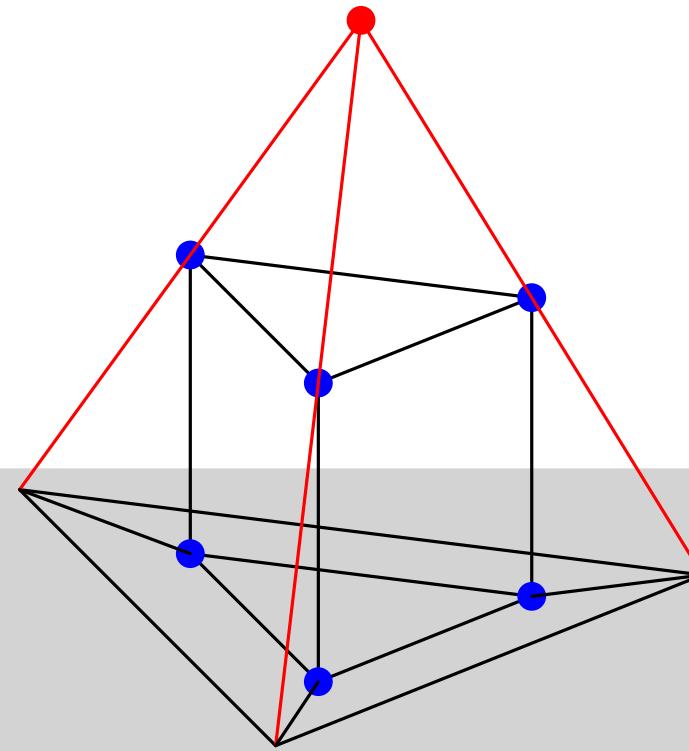
問題

3次元凸多面体 P の頂点数が n のとき,
 P のファセット数はどれだけ大きくなりえるか？





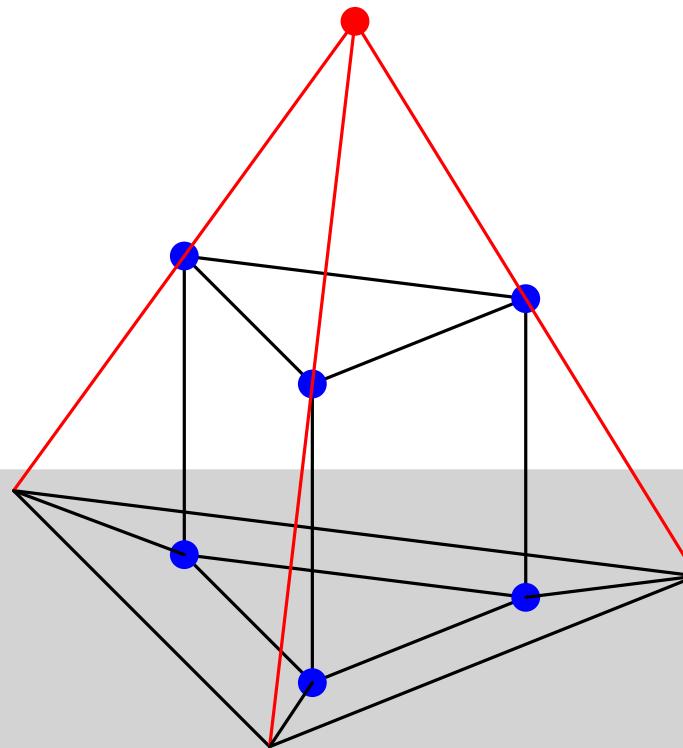




3次元凸多面体 → 非交差幾何グラフ

頂点
辺
ファセット

頂点
辺
面



性質：非交差幾何グラフの辺数と面数

頂点数 $n \geq 3$ の任意の非交差幾何グラフにおいて，

- 辺数 $\leq 3n - 6$
- 面数 $\leq 2n - 4$

証明には、オイラーの公式を用いた

3次元凸多面体 \longrightarrow 非交差幾何グラフ

頂点数

$$= n \geq 4$$

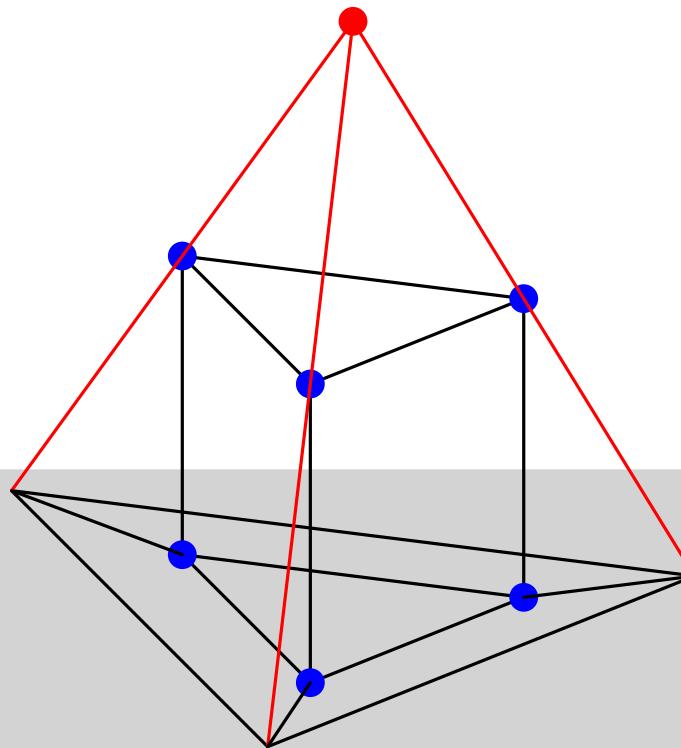
辺数

ファセット数

頂点数

辺数

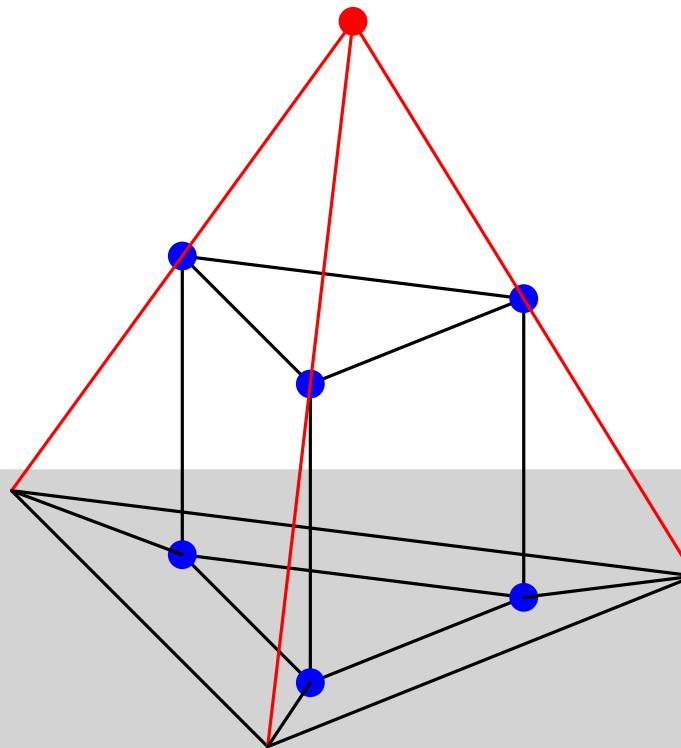
面数



3次元凸多面体 \longrightarrow 非交差幾何グラフ

頂点数 $= n \geq 4$
辺数
ファセット数

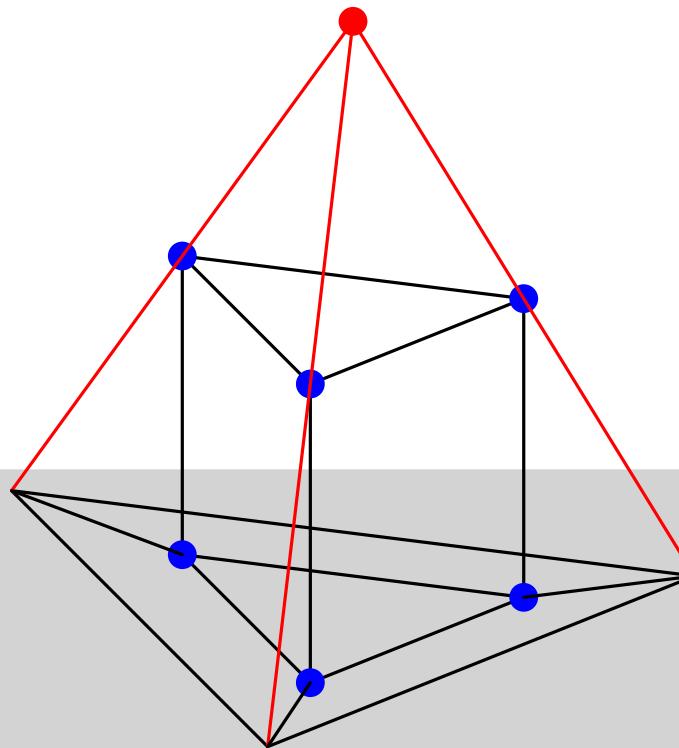
頂点数 $= n \geq 4$
辺数
面数



3次元凸多面体 \longrightarrow 非交差幾何グラフ

$$\begin{array}{ll} \text{頂点数} & = n \geq 4 \\ \text{辺数} & \\ \text{ファセット数} & \end{array}$$

$$\begin{array}{ll} \text{頂点数} & = n \geq 4 \\ \text{辺数} & \leq 3n - 6 \\ \text{面数} & \leq 2n - 4 \end{array}$$



3次元凸多面体 \longrightarrow 非交差幾何グラフ

$$\text{頂点数} = n \geq 4$$

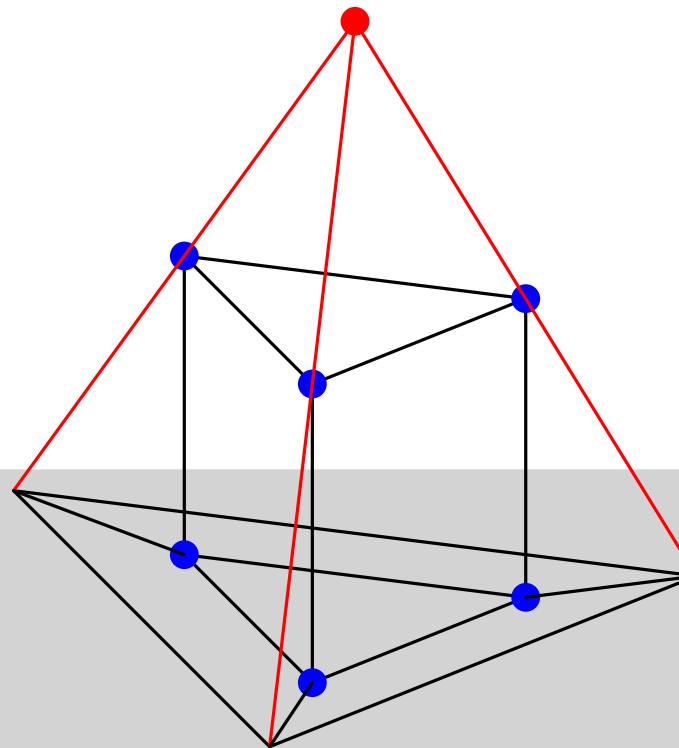
$$\text{辺数} \leq 3n - 6$$

$$\text{ファセット数} \leq 2n - 4$$

$$\text{頂点数} = n \geq 4$$

$$\text{辺数} \leq 3n - 6$$

$$\text{面数} \leq 2n - 4$$



3次元凸多面体 \longrightarrow 非交差幾何グラフ

$$\text{頂点数} = n \geq 4$$

$$\text{辺数} \leq 3n - 6$$

$$\text{ファセット数} \leq 2n - 4$$

$$\text{頂点数} = n \geq 4$$

$$\text{辺数} \leq 3n - 6$$

$$\text{面数} \leq 2n - 4$$

結論：3次元凸多面体のファセット数

3次元凸多面体 P の頂点数が $n \Rightarrow$

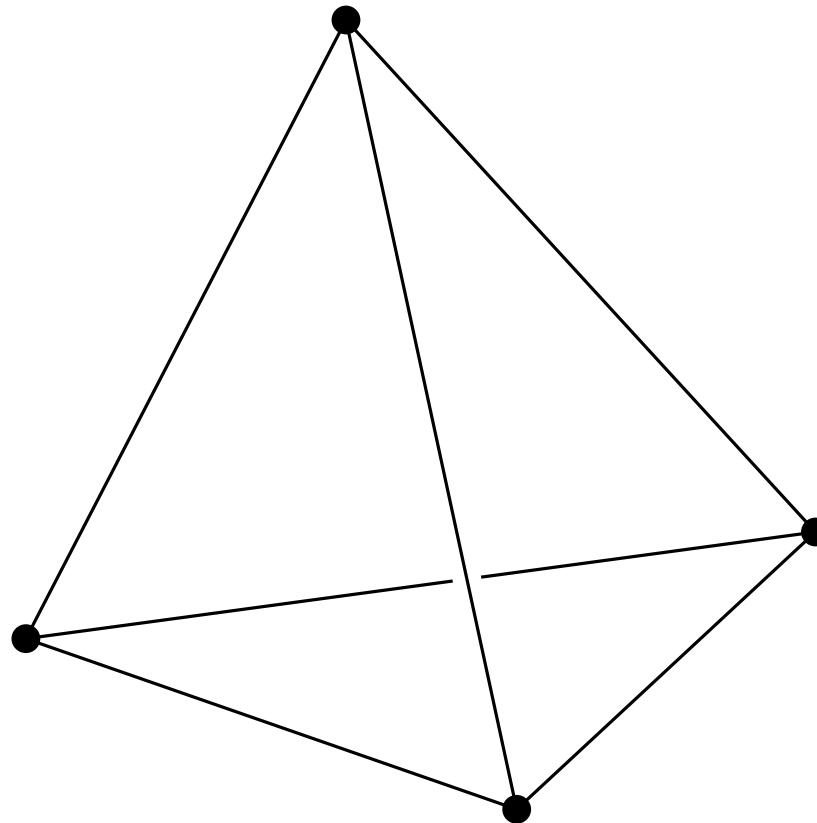
$$P \text{ の辺数} \leq 3n - 6,$$

$$P \text{ のファセット数} \leq 2n - 4$$

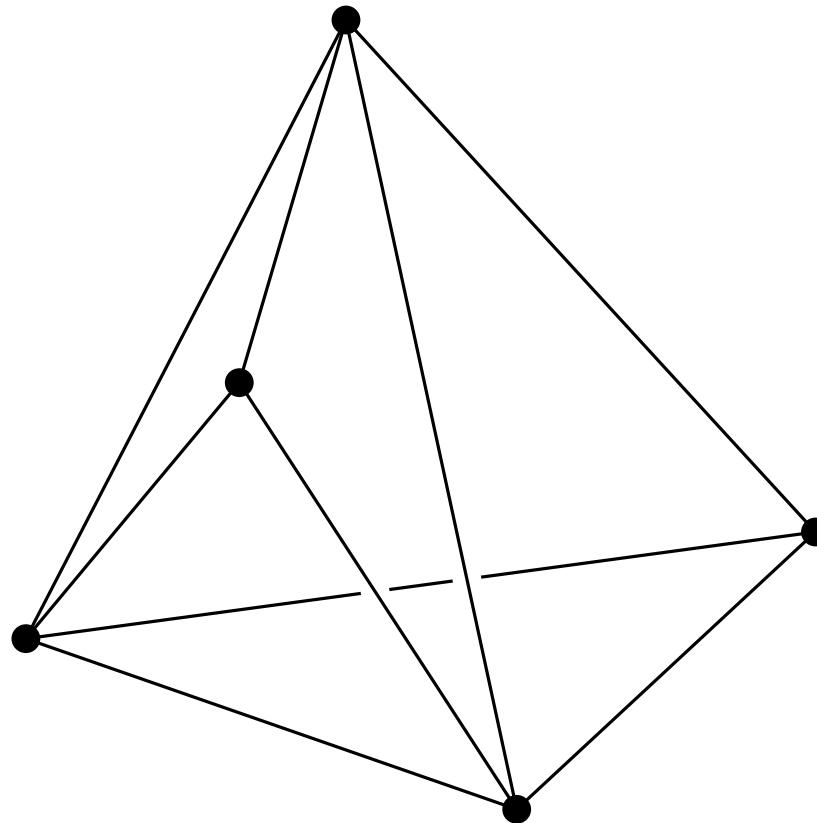
補足：任意の整数 $n \geq 4$ に対して、

等号を同時に満たす3次元凸多面体が存在

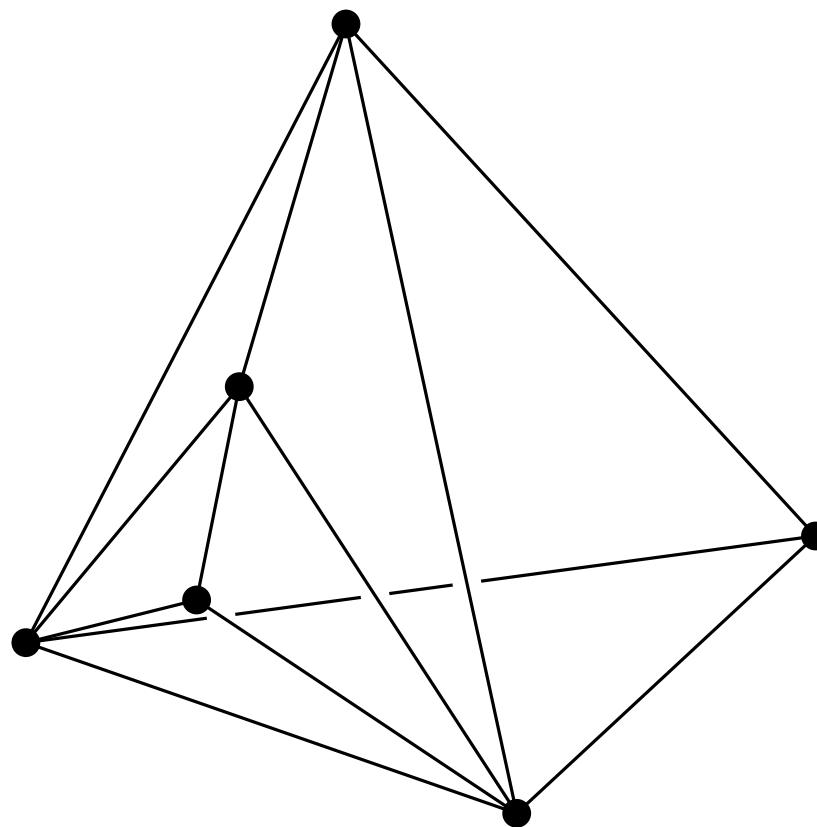
頂点数	4
辺数	6
ファセット数	4



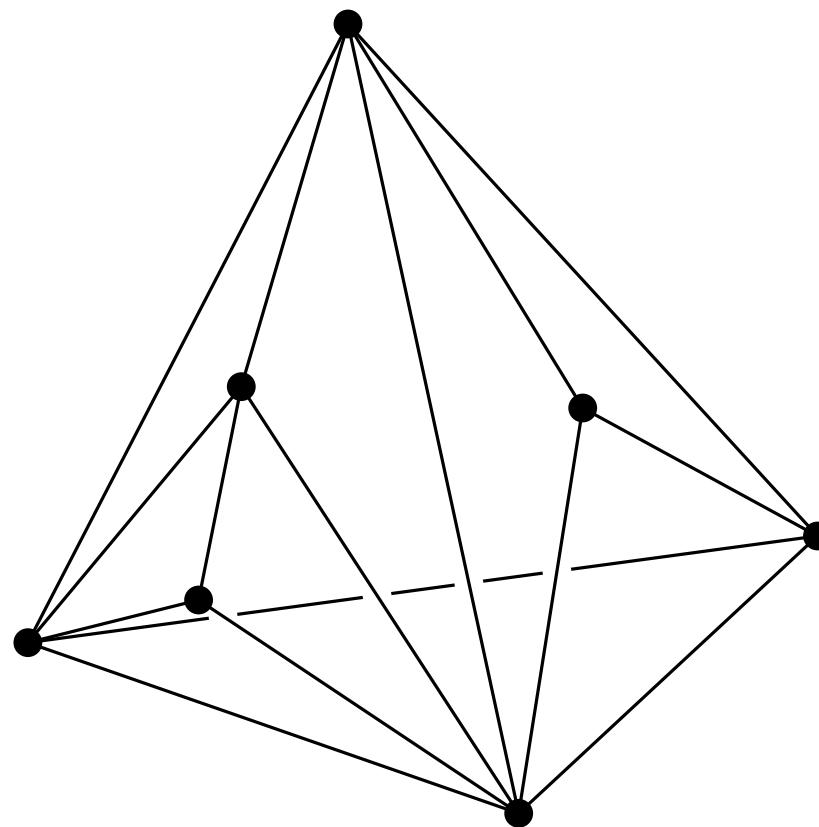
頂点数	4	5
辺数	6	9
ファセット数	4	6



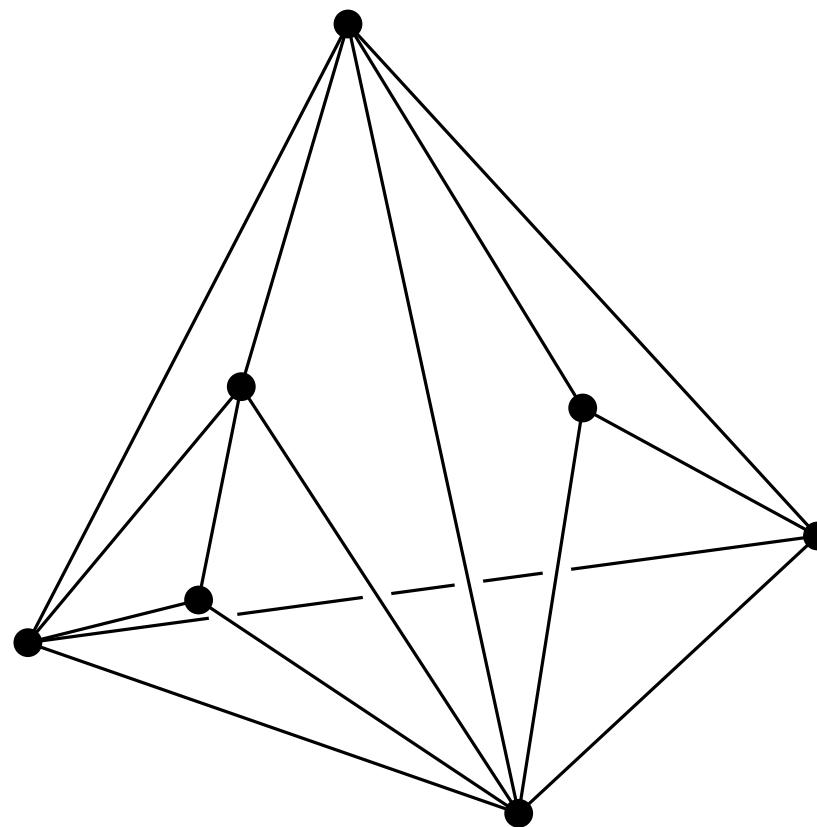
頂点数	4	5	6
辺数	6	9	12
ファセット数	4	6	8



頂点数	4	5	6	7
辺数	6	9	12	15
ファセット数	4	6	8	10



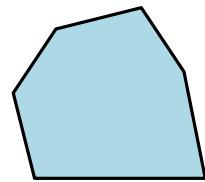
頂点数	4	5	6	7	n
辺数	6	9	12	15	$3n - 6$
ファセット数	4	6	8	10	$2n - 4$



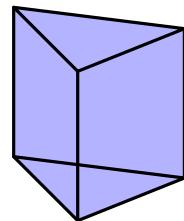
1. 凸多面体の面
2. 凸多面体の面の数：3次元の場合
3. **凸多面体の面の数：4次元以上の場合**

次元 d

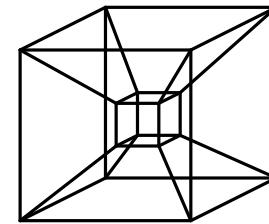
2



3



4以上(の定数)

頂点数 = n のとき

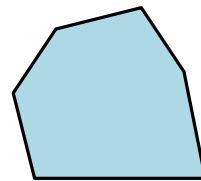
$$\text{辺数} = n \leq 3n - 6$$

$$\text{ファセット数} = n \leq 2n - 4$$

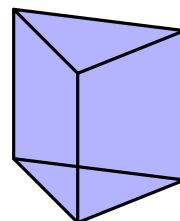
(等号を満たす場合あり)

次元 d

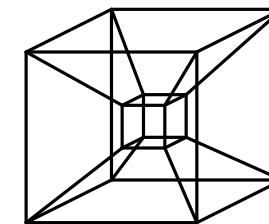
2



3



4以上(の定数)

頂点数 = n のとき

$$\begin{array}{lll} \text{辺数} & = n & \leq 3n - 6 \leq \binom{n}{2} \end{array}$$

$$\begin{array}{lll} \text{ファセット数} & = n & \leq 2n - 4 \leq O(n^{\lfloor d/2 \rfloor}) \end{array}$$

(等号を満たす場合あり)

(等号を満たす場合あり)

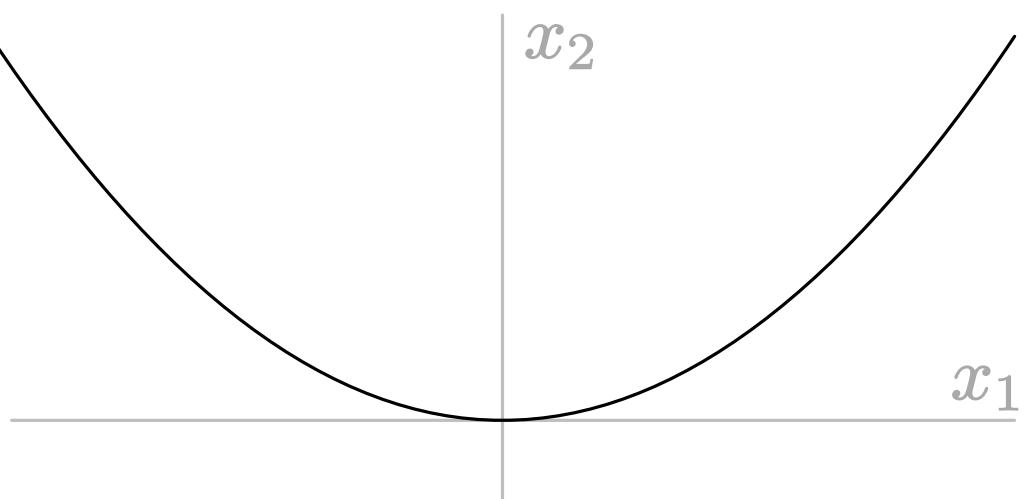
定義：モーメント曲線

\mathbb{R}^d における **モーメント曲線** とは次の曲線

$$\left\{ \gamma(t) = \begin{bmatrix} t \\ t^2 \\ \vdots \\ t^d \end{bmatrix} \in \mathbb{R}^d \mid t \in \mathbb{R} \right\}$$

$d = 2$ のとき : $x_1 = t, x_2 = t^2$

$$\therefore x_2 = x_1^2$$

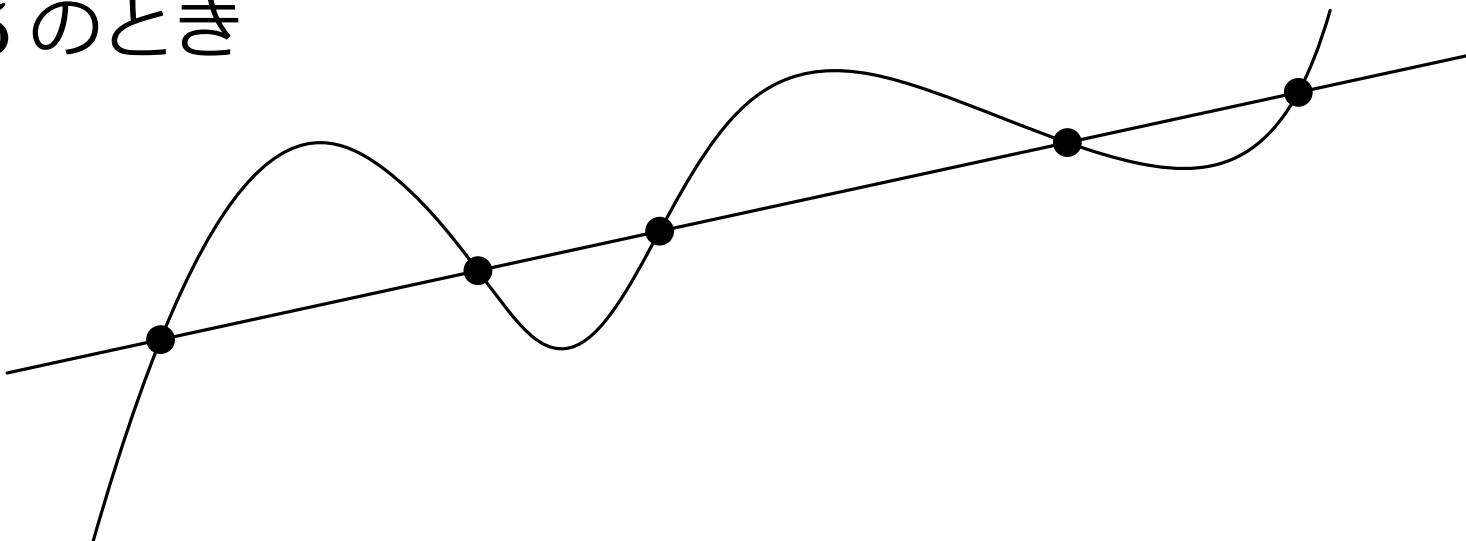


性質：モーメント曲線と超平面の交わり

\mathbb{R}^d ($d \geq 2$) において次が成り立つ

1. モーメント曲線と超平面の交わりは 高々 d 個の点
2. モーメント曲線と超平面が交わりがちょうど d 個の点
⇒ 交わりにおいて、その超平面はモーメント曲線に接していない

$d = 5$ のとき



性質：モーメント曲線と超平面の交わり

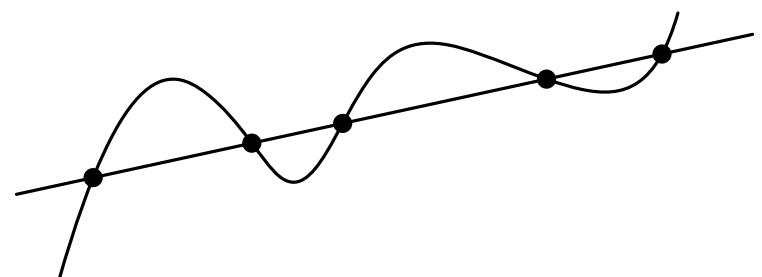
\mathbb{R}^d ($d \geq 2$) において次が成り立つ

1. モーメント曲線と超平面の交わりは 高々 d 個の点

証明 (1) : 超平面 h を $a^T x = b$ が定義するとする

- モーメント曲線上の点 $\gamma(t)$ が h 上にある
 $\Leftrightarrow a^T \gamma(t) = b$
 $\Leftrightarrow a_1 t + a_2 t^2 + \cdots + a_d t^d - b = 0$
- 最後の式は t に関する高々 d 次の代数方程式
- \therefore 高々 d 個しか解を持たない
- \therefore 高々 d 個しか交わり点を持たない

□



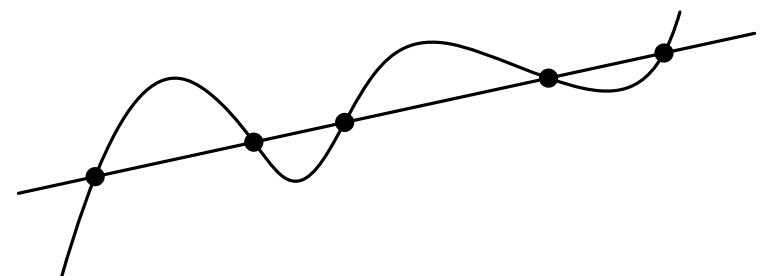
性質：モーメント曲線と超平面の交わり

\mathbb{R}^d ($d \geq 2$) において次が成り立つ

2. モーメント曲線と超平面が交わりがちょうど d 個の点
⇒ 交わりにおいて、その超平面はモーメント曲線に接していない

証明 (2)：超平面 h との交わり点がちょうど d 個であるとする

- t に関する多項式 $a_1t + a_2t^2 + \cdots + a_dt^d - b = 0$ の次数は d で、すべての解の重複度は 1
- ∴ 交わり点において接していない



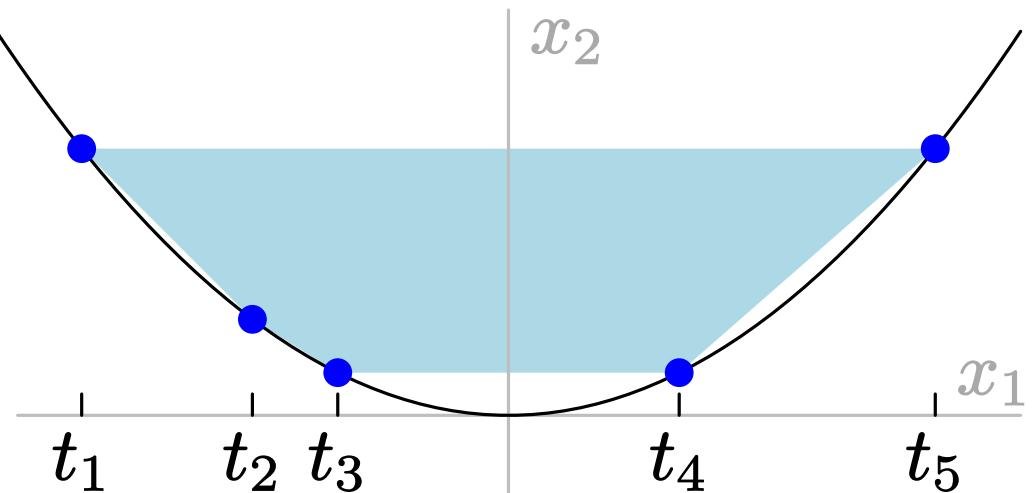
整数 $n \geq d + 1$

定義：巡回多面体

頂点数 n の **d 次元巡回多面体** とは,
モーメント曲線上の n 個の点の凸包のこと
つまり, $t_1 < t_2 < \dots < t_n$ を用いた次の凸多面体

$$\text{CH}(\{\gamma(t_1), \gamma(t_2), \dots, \gamma(t_n)\}) \subseteq \mathbb{R}^d$$

$d = 2$ のとき



性質：巡回多面体の次元

頂点数 n の d 次元巡回多面体の次元は d である

証明： $\gamma(t_1), \gamma(t_2), \dots, \gamma(t_{d+1})$ がアフィン独立であればよい

性質：巡回多面体の次元

頂点数 n の d 次元巡回多面体の次元は d である

証明： $\gamma(t_1), \gamma(t_2), \dots, \gamma(t_{d+1})$ がアフィン独立であればよい

$$\begin{bmatrix} 1 & 1 & \cdots & 1 \\ t_1 & t_2 & \cdots & t_{d+1} \\ t_1^2 & t_2^2 & \cdots & t_{d+1}^2 \\ \vdots & \vdots & \ddots & \vdots \\ t_1^d & t_2^d & \cdots & t_{d+1}^d \end{bmatrix}$$

性質：巡回多面体の次元

頂点数 n の d 次元巡回多面体の次元は d である

証明： $\gamma(t_1), \gamma(t_2), \dots, \gamma(t_{d+1})$ がアフィン独立であればよい

$$\begin{bmatrix} 1 & 1 & \cdots & 1 \\ t_1 & t_2 & \cdots & t_{d+1} \\ t_1^2 & t_2^2 & \cdots & t_{d+1}^2 \\ \vdots & \vdots & \ddots & \vdots \\ t_1^d & t_2^d & \cdots & t_{d+1}^d \end{bmatrix} \leftarrow \text{ヴァンデルモンド行列}$$

$$\text{行列式} = \prod_{1 \leq i < j \leq d+1} (t_j - t_i)$$

(演習問題)

$$\neq 0$$

\therefore この行列の階数 = $d + 1$

□

次回に紹介すること

P が頂点数 n の d 次元巡回多面体であるとき

- P のファセット数が $\Omega(n^{\lfloor d/2 \rfloor})$ であること
- P の辺数が $\binom{n}{2}$ であること

今日の目標

凸多面体の面を調べることができるようになる

- 面の定義：頂点，ファセット
- 凸多面体の面の数

多くの証明を省略する

(線形計画法の理論を必要とするため)